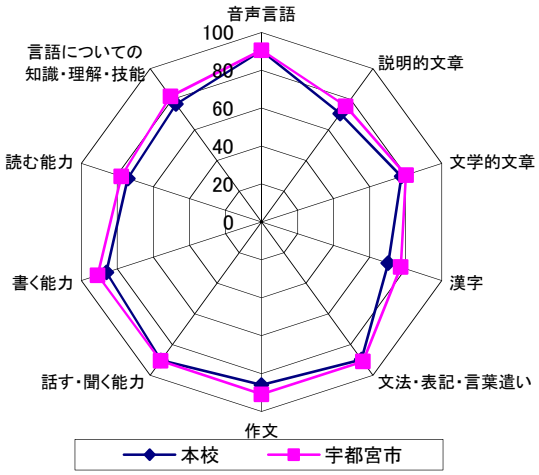
宇都宮市立国本中学校第３学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	音声言語	90.3	90.6
	説明的文章	70.6	75.5
	文学的文章	77.7	80.2
	漢字	70.3	77.2
	文法・表記・言葉遣い	89.8	91.0
	作文	86.0	90.9
観点別	話す・聞く能力	90.3	90.6
	書く能力	86.0	90.9
	読む能力	74.1	77.8
	言語についての知識・理解・技能	76.8	81.8



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
音声言語 (90.3%)	・平均正答率は市全体の平均と比べると0．３パーセント低い。前年度が2．８パーセント低かったことを考えれば、多少改善されたと考えられる。今年度は一学期あたり四回の聞き取りテストを行い、聞き取りテスト自体になれることができたためと考えられる。	・聞き取りテストの回数を確保し、聞き取りに慣れさせるとともに、事実と意見、中心部分、付加部分などの聞き分けに注意させていきたい。
説明的文章 (70.6%)	・平均正答率は市の平均より4．９パーセント低い。特に文章に即した内容の理解に関する問題は市の正答率より12．５ポイント下回っている。一方、文章の要旨を捉える問題は市の平均を2．３パーセント上回っており、基本的なポイントを押さえて読むことはできているが伺える	・普段からいろいろな説明的文章に触れさせ、論の展開や、説明文に多い漢語表現に慣れさせたい。その上で、接続語や筋語の使いかたや論の展開に目を向けられるようなスキルを身につけさせていく。
文学的文章 (77.7%)	・平均正答率は市の平均より3．６パーセント低い。特に、登場人物の心情を問う設問のミスが目立つ。選択肢のなかで、もっとも正解とかけ離れたものを選んでいる者が6．３パーセントおり、市の平均でこの選択肢を選んだ者は2．１パーセントであった。	・読書をしている生徒は多いものの、傾向が偏りがちである。ブックトークなどを通して、様々な作品に触れる機会を設けたい。また、同じ作品を読んでも受取手によってその感想は異なるので、伝え合う学習を設定し、解釈の違いやそのおもしろさを味わわせたい。用いることばひとつで解釈が異なることなど、語句を丁寧に味わうことで解釈が変わる活動を設定し、ことば一つ一つをしっかりつかんでいく姿勢を育てていきたい。
漢字 (70.3%)	・漢字の読みはほぼ市の平均に達しているが、学年を問わずに書き問題は苦戦している。特に「派遣」など似た形の漢字を持つものの正答率が低かった。	・新出漢字については授業で書き順、熟語とその意味を確認してきたが、定着が図れていなかった。部首とその持つ意味を理解させ、小テストなどの回数を増やし、自主的に学習する機会を設け、定着を図りたい。
文法・表記・言葉遣い (89.8%)	・平均正答率は市の平均より1．２パーセント下回っているがほぼ同程度と考えられる。助動詞の識別の正答率が他の問題よりも若干低かった。が、他の設問については市の平均率を上回っていた。	・単元学習時だけでなく、読み取りの教材の学習中などでも標記や言葉遣いについて取り上げ、解説を加えていく。また、数多くの実践問題を解き、解説し、定着を図っていきたい。
作文 (86.0%)	・平均正答率は市の平均より7．８パーセント下回っている。目を引くのはどの設問にたいしても無回答の比率がとても高いことである。これは市と比較しても倍に近い数値である。比較的容易な設問であっても最初からあきらめてかかずに済ませているものが多いことがわかる。また、記入したものの中でも誤字脱字によって正解できていないもの割合が高いことがうかがえる。	・作文の単元を扱う時には、構成や内容をわかりやすく示してから書かせたい。また、作文の単元に限らず、教科書に注意する語句が掲載されているときに、短作文を作らせ、お互いに書いたものを読み合う活動を取り入れ、書くことへの抵抗を減らしたい。